

山口 遼太郎 個展

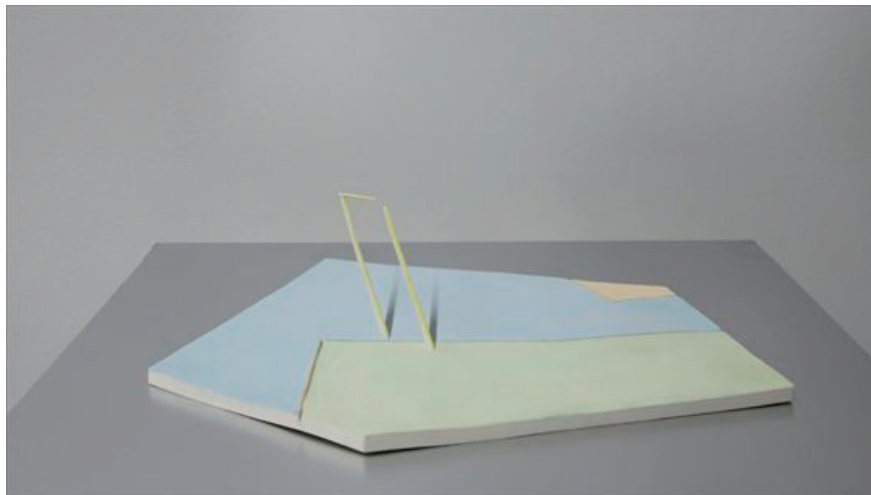
YAMAGUCHI Ryotaro solo exhibition

灯り 微かにかぜ

akari kasukanikaze



www.kunstarzt.com



そら ひかり 2024 陶土・化粧土・下絵の具

KUNST ARZT では、山口遼太郎の初個展を開催します。

山口遼太郎は、繊細で、詩情豊かな陶芸作品を生み出すアーティストです。

日常に溢れる小さなひかりをモチーフに、静かな場所にキラッと何かが光る場面や風景を表現した連作「そら ひかり」(2024)、細さの限界を楽しむように、ハリガネのような形状で、微かなきらめきを表現した連作「star practice」(2022) など、これまで連作という形で、一つのタイトルが複数の作品に付けられてきました。

本展では、知らない記憶、異国情緒、オールゴールのような懐かしさといった断片(陶片)をつなぎ合わせる構想です。
(KUNST ARZT 岡本光博)

経歴

- 1999 大阪府堺市生まれ
2022 京都市立芸術大学 美術学部工芸科 陶磁器専攻 卒業
2024 京都市立芸術大学 美術研究科工芸専攻 陶磁器細目 修了

展覧会

- 2021 合同陶芸展 堀川御池ギャラリー
2022 アールシー陶器市 RC HOTEL KYOTO YASAKA
2022 Winter Art Market FebgalleryTokyo
2023 わが陶はゆくえもしらずはてもなし 京都パルスプラザ・夢工房ブース
2023 予言(山口遼太郎・中田さわ二人展) kumagusuku
2024 ビビビ工・芸・美 京都伝統産業ミュージアム企画展示室
2024 grid3 biscuitgallery 渋谷・京都蔦屋書店 6F ギャラリー
2024 アートアワードトーキョー丸の内 2024 行幸地下ギャラリー(フランス大使館賞)

2024年10月8日(火) から 13日(日)

12:00 から 18:00

会 場 : KUNST ARZT

605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F

問い合わせ



KUNST ARZT 代表 岡本光博

090-9697-3786

kunstarzt@gmail.com

展覧会コンセプト

知らない記憶、異国情緒やオールゴールのような懐かしさといった断片(陶片)をつなぎ合わせる。

列車 絨毯 草原 灯り 回転 そしてかぜ

アーティスト・ステートメント

自分の中にある物語の断片や日々の思いがけない瞬間や風景、思いついた秘め事を机に向かい記録するように造形する。陶土の可塑性や焼成によって起こる反りやへたりに用いた即興的な造形や、陶器の危うさから感じる儚さ繊細さといった印象を、自身のテーマと組み合わせた作品制作を行う。陶器らしい表情と壊れそうで繊細な造形によって、物質感がありつつも浮遊感や軽やかさを纏った作品を制作している。

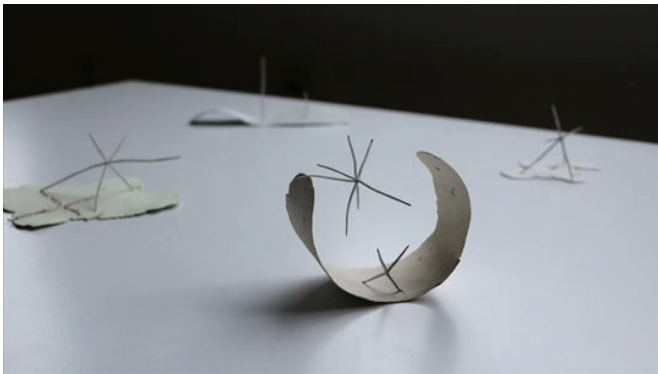
陶土を叩いて伸ばす。乾燥で陶土が反る。顔料を混ぜ込んだ化粧土を粘土の板に何層も塗り重ねる。

小さく繊細な造形物を陶土で作る泥漿でくっつける。

そのような即興的な土とのやりとりから生まれる新たな造形やモチーフの捉え方を期待している。

また自分の中の絵画的イメージを立体に起こす際、立体と平面の感覚を行き来するような造形を行う。

遠景と近景を意識しながら、作品を近くで見た時に起こる、小さな世界が急に目の前に現れるような没入感が生まれる造形を行っている



star practice

2022

陶土 インスタレーション・サイズ可変

微生物や古代の無脊椎動物のゆらぎや光に反射してキラキラする様、遠くの小さな光といった微かなきらめきを表現した。土台と造形物の関係から細く繊細な造形を抽出し、土遊びの感覚で、弱さや軽やかさを細い針金のような陶造形で表現した。



そら ひかり

2024

陶土・化粧土・下絵の具

サイズ可変

カメラで光を捉えたときに映る虹色の輪っか、反射して地面に映される虹色、夜空にチカチカと浮かぶ光の信号。そんな日常に溢れる小さなひかりをモチーフに、静かな場所にキラッと何かが光る場面や風景を表現した。

陶土の可塑性を用いて即興的に小さな造形を行う。焼成による変質で起こるヒビや反り、へたりにといった陶器の持つ危うさから儚さや繊細さを抽出し、極端に小さな造形を行うことで小さく微かな光を表現した。



スロー

2022

陶土 サイズ可変